

2026 年 5 月 28 日

学校法人三幸学園
福岡リゾート&スポーツ専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 秋吉 美和

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 秋吉 美和（有限会社オールバーク 代表取締役社長）
- ② 植山 誠（公益財団法人福岡市スポーツ協会 事業課長）
- ③ 野田 愛信（株式会社 ATTAİN 代表取締役）
- ④ 徳丸 秋桜（学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校 福岡博多キャンパス キャンパス長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 5 月 27 日（会場 福岡リゾート&スポーツ専門学校 601 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 福岡リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 藤川 千奈美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 秋吉 美和

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持続し、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【保護者連携】

(1) 保護者連携ツールの「スクレ」を導入

・学内行事の案内等を発信できるようになったため、保護者との連携が強化された。

【教育活動について】

(1) 新カリキュラムの開始に伴い、運営に関わる教職員を対象とした理解度向上研修の実施

・2026 年度の学科運営計画を作成した上で、より高い教育効果につながる施策を実施予定。

(2) 入学時から将来のキャリアを具体的に考えることを目的とした「初期教育」の実施

・前期末までの退学者の減少につながったため、2026 年度も継続して実施する予定。

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校の理念や教育環境について、保護者会等で周知を行っているものの、継続的な情報発信が十分ではなく、年1回程度の周知にとどまっていることが課題である。

② 今後の改善方策

・入学前にリアルタイムで実施する保護者会のみでの周知にとどまらず、学校理念や教育内容に関する資料を各保護者に郵送し、家庭で継続的に確認できる環境を整備する。

③ 特記事項

・学生が目指す人材像を確認できる環境を整備している。
・業界ニーズの変化に対応するため、2024年度よりカリキュラムを実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・飛鳥未来高等学校は保護者連携を密に行っており、年度初めの保護者への連絡を必須としている。今年度は学校行事終了後に学校での様子等を記載したお便りを配信している。（徳丸委員）
・高校訪問時、教員・保護者から「学校名・学科は知っているが、どのような学科なのか」「競合校との違い」「学費」について質問を受けることが多い。また、保護者からは「子どもが専門学校でどのようなことを学び、どのような活動をしているのかを知りたい」という声も多いため、専門学校での学びや教育活動の内容が分かるようにしたらよいのではないか。（秋吉委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・学園内の人事制度が 2024 年度より変更となったが、教員によって理解度の差があり(新入職員等)、内容を均一に浸透させていくことが必要。

② 今後の改善方策

・新入職員を中心に学園内統一のオンデマンドの資料を確認するよう周知の徹底をする。

③ 特記事項

・教員及び学生を対象にコンプライアンス研修を実施した。

・教員を対象に人事力育成会議を実施し、評価者を対象とした人事評価制度に関する共通認識を図る機会を設けた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・毎週ミーティングを実施し、月間及び週間の計画を共有するとともに、業務の進め方や内容などを確認する時間を設けている。また、各個人のスキルアップに向けた取り組みについて「会社及び個人」の双方の視点から認識を共有し、目標設定をしている。設定した目標に対して、期日を定めて達成状況や取り組み内容を振り返り、意見交換を行っている。(野田委員)

・担当業務に合わせた目標設定を行い、中間報告や成果の確認を通じて、共通認識を図るため、定期的な面談を実施している。(植山委員)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・関連分野の研修には参加できているものの、教職員が最先端の知識やトレンドを主体的に習得する機会の充実が課題。

② 今後の改善方策

・連携企業様や講師から研修やセミナーに関する情報をいただく仕組みを構築するとともに、情報収集のためのヒアリングを強化する。

③ 特記事項

・教員研修として関連分野への理解を深める研修と現在の中高生を取り巻く教育環境に関する研修を実施した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・現場では企業様とのコミュニケーションを重視し、常に業界（企業）の今後の動向に関する情報収集を意識している。一人が得られる情報には限りがあるため、多くの情報を得られるよう、日頃から周囲との関係性を構築し、得られた情報を適切につなぎ共有することが重要である。また、学校現場においても、教員がそれぞれの得意分野を

生かして得た情報を教職員間で共有し、教育活動に反映することで、学生への還元につながるのではないかと。
(野田委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・退学率の低減は図ることができたが、新カリキュラムの完成年度であることから、資格試験合格率に対する教育効果の検証が課題である。

② 今後の改善方策

・授業アンケート及び卒業生アンケートの分析を例年以上に詳細に実施し、教育内容の改善に活用する。
・教科連携を目的とした、検定資格の合格率向上のための対策検討会議を実施する。

③ 特記事項

・学校創立30周年記念同窓会を開催し、卒業生による講演・発表を実施した。
・卒業生向け LINE を活用し、独立支援制度の周知を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・飛鳥未来高校では、今年度から毎回の授業終了後に授業アンケートを実施している。毎回実施することで、課題が授業の進め方にあるのか、授業内容にあるのかを分析し、半年間継続して実施した後フィードバックを行う予定。
(徳丸委員)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・コンプライアンスへの配慮が求められる中、学生の生活環境に踏み込んだ支援や対応がここ数年でより難しくなってきた。
- ・中途退学者への支援体制は整備されているものの、支援の要望が少ないため、実績が十分ではない。

② 今後の改善方策

- ・全体会議等を活用し、教職員を対象としたコンプライアンス研修を継続的に実施する。
- ・退学者アンケートの回答を集計・分析し、その結果を踏まえて支援体制の改善を図る。

③ 特記事項

- ・オンラインカウンセリングを導入し、学生の相談窓口の充実を図った。
- ・年度初めに全教職員を対象に、現代の中高生の教育環境について理解を深める研修を実施し、学生との関わり方について理解を深める機会を設けた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・コンプライアンスやハラスメントへの配慮から、教員が必要な指導をためらう場面もあるように感じる。適切な指導方法や伝え方を学び、必要な指導を適切に行えるような研修を実施してはどうか。（秋吉委員）
- ・業務において問題が発生した際には、事実に基づいて状況を共有し、理解と解決につなげることが重要である。また、具体的な事例を取り入れた実践的な研修を実施してはどうか。（植山委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・学内外の実習施設、インターンシップの体制はとれているが、その周知方法を振り返った際に、学校にいただく求人票や実習施設に関する情報が、ホームルームでの案内と紙面での提示のみとなっており、見ている学生と見ていない学生の差が生じている。

② 今後の改善方策

・WEB で求人票を見ることができる掲示板を導入し、学外でも学生が確認できる環境を設定する。

③ 特記事項

・通常教室を実技と座学両方できる教室を作り、カリキュラムに合わせた設備に変更した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・求人票について:学校・その他、携帯で確認することがほとんどなので WEB を活用するとよい。求人票に記載できる内容だけでなく、実際の現場でしか分からないものがあるため、学外授業は、現場を知る上で有効。

その点を求人票に記載できると他の学校との差別化にもなるのではないかと。(野田委員)

・求人票の見方をどこまで教えているのか。就職活動において、求人票の見方が分からないと、応募する企業の選び方が分からないのではないかと。(秋吉委員)

(7)学生 of 受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・早期から職業理解及び学校理解を深める取り組みを推進し、入学希望者の進路意識の醸成を図ることが課題である。

② 今後の改善方策

・中学校及び高等学校で実施する進路ガイダンスを通して、業界の魅力や職業理解を深める機会を充実させる。
 ・オープンキャンパスにおいて、職業理解につながる体験プログラムを充実させる。

③ 特記事項

・全国専修学校各種学校総合連合会のルールに基づき、適正な入学者選抜を実施した。
 ・同和問題に関する研修に参加し、公平・公正な入学者選抜を実施するための理解を深めた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・進路・就職活動は3年次から始まるのではなく、1年次から計画的に取り組むことが重要である。1年次には少なくとも1回はオープンキャンパスへ参加するように指導し、2年次では1年次とは異なる学校を見学するよう促すなど、学年に応じた進路・就職指導を実施している。（徳丸委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

・教職員を対象にコンプライアンスの遵守を目的とした研修を対面及びオンライン視聴により実施した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・地域との連携やボランティア活動への参加機会を充実させ、学生へ積極的に情報提供するとともに、参加しやすい環境を整備することが課題である。

② 今後の改善方策

春住公民館との連携を強化し、授業の一環として地域住民を対象とした運動指導を実施する機会を設ける。

③ 特記事項

- ・博多駅クリーンデイへの参加
- ・比恵町クリーンデイのイベント企画・運営を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

・春住公民館との連携は、地域貢献や学生の実践的な学びにつながる有意義な取り組みである。また、子ども会での運動指導やボランティアセンターとの連携など、地域との協働の機会をさらに拡充してはどうか。（植山委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

姉妹校の福岡ウェディング＆ブライダル専門学校では毎回授業終了後に授業のアンケートを実施し、その結果を毎回フィードバックすることで、授業内容の振り返りや改善につなげ、授業の質の向上を図っている。また、学生にとっても「意見を受け止めてもらえている」という実感につながり、授業アンケートへの回答意欲や結果にもつながっている。さらに、学生が社会で活躍するためには、専門的な知識・技術だけでなく、人間性や主体性、気づく力、自ら考える力を育成することが重要であり、そのためには教員自身の指導力や教育力の向上が必要であるとの意見があった。学生の気づく力や考える力を伸ばす指導ができるよう、講師を含めた教員の資質向上が課題となっている。（藤川副校長）